募集要項　【エントリー〆切：2025年4月14日(月) 10時】

2025 ULTRA PROJECT

BYEDIT ｜多田智美・竹内厚

■プロジェクト内容（予定）

さまざまな人の知恵や技術を掛け合わせて何かを生み出していくことは、編集の力のひとつです。BYEDITは、「編集」の力を使いながら、ウルトラファクトリーから新たなメディアを立ち上げるプロジェクトです。1年間ゆるゆると編集会議をしながら、「メディアをつくる」「出来事をつくる」を実践していきます。加えて、ウルトラファクトリーの機関紙となる『THE　ULTRA』の編集・制作を担当。過去には4か国語表記や、すべて開けばA0判型（長辺1m以上！）となる巨大な紙面、ファクトリーを活用したファッション写真撮影などの企画を実現しましたが、今年度の編集方針、企画案などは集まった学生と編集会議を重ねた上で決定します。

実施期間	2025年5月－2026年2月
活動場所	ウルトラファクトリーを中心に
活動日	毎週1回[前期：水or木曜、後期：火or木曜を予定] 18:00～20:00の編集会議を軸に活動します

■スケジュール

4月14日（月）	エントリー〆切（10時まで）
4月22日（火）	17:30～　面談（申込者全員）@Zoom
4月28日（月）	選考結果をメールにて連絡
5月1日　（木）	18:00～　キックオフミーティング@ウルトラファクトリー

※上記は現時点での予定です。変更の可能性もありますが、
各日スケジュールは空けておいてください。

■単位認定

あり

※通年の活動参加で、プロジェクト演習科目／ウルトラ・プロジェクト1（準正課）2単位を申請予定

※大学院生の単位認定は、スチューデント・オフィス（大学院担当）よりお知らせします。

■募集人数

10名程度

■応募方法

エントリーフォームより必要事項（志望動機／ 自己PR）を入力し、応募してください。別途、「今、気になってる人25人を列挙ください。（有名無名は問いません。また、その理由までは書く必要はありません。書式自由）」提出締切［4/14（月）10時］までにデータまたは用紙にて提出してください。データで提出の場合は下記のメールアドレスへ送付、用紙の場合はウルトラオフィス（至誠館4階）まで持参ください。書類選考を経て、ディレクターとの面談、キックオフミーティングを行います。

※エントリーフォームへは、特設サイトプロジェクト一覧の末尾にある【ウルトラプロジェクトのエントリーはこちら】から

■お問い合わせ

不明な点や質問は、ウルトラファクトリー オフィス（徳山・浦田）まで。

TEL　075-791-8482　　Email ultrafactory@office.kyoto-art.ac.jp

ULTRA FACTORY

■ 今年のBYEDITどんな感じにやりますか〜という話

…これまでのBYEDITで行ってきた編集の実験を振り返りつつ、今年度をどう進めるか、ふたりのディレクターが相談しました。

□これまでBYEDITでやってきた編集の実験

紙メディア

対談の実施と文庫本の形での記録
思いがけない顔合わせによる対談を企画して、その内容を1冊の文庫本として収録。
｜「BYEDIT BOOK」

辞書のフォーマットを借りた自己紹介
自分を構成するもの、気になってるものや好きなもの嫌いなもの、口癖などを辞書形式でまとめることで、赤の他人でも興味を持ってどこからでも読める紙メディアに。｜「いきじびき」

子どものころの創作物からメディアをつくる
芸大生が子どものころに描いていた絵や日記、提出物などを集約して冊子化。ただ思い出として掲載するのではなく、今の目線でツッコミを足していくことで誰もが読めるものに｜「ハリセンもって会いに行く」

その他メディア

ひとりしゃべりラジオをリレー形式で
複数のルール（収録時間、冒頭に話すこと、締めに話すこと……など）のもと、学生がひとりで話すラジオ音声を収録。リレー形式でつなぐことで番組化！—「エディのカップラーメンタイマー」

議事録代わりに音声収録
編集会議やその日の活動記録をテキストで記録する代わりに、出来事が終わったその場で何人かで振り返りつつ話しをして、ラジオ番組的に収録。その音声共有をもって議事録の代わりとする。—「BYEDIT RADIO AM/FM」

フリップ芸を活用したある物事の紹介
フリップ芸のフォーマット（大きめの横書き画用紙をめくっていくスタイル）を使っての発表、報告。氾濫するパワーポイントによる発表へのカウンターとしても。

アーカイブの張り出し
溜まるばかりのアーカイブを編集して削ぎ落とすのではなく、まずはすべて視覚化して貼り出してみる。たとえば紙メディアのバックナンバーを全ページ掲示してみること。

イベント

トークイベントと同時進行で複数の制作が進むイベント
壇上でのトークイベントにあわせて、副音声のようにいくつかの制作も同時進行。料理、ロゴ考案、テーマ音楽づくり、スケッチ……イベントの最後にはその成果物をみんなで共有する。｜オッス！ 編集

出来事

ラップで説明書
ラッパーによる1日WSで、ウルトラファクトリーの機材説明をラップ化。最後にパフォーマンスとして披露するとともにMVとして記録。

1日で即興芝居をつくってその場を開く
ウルトラファクトリーで殺人事件が起きた、の設定だけを準備して、演劇人とともに1日WSで芝居をつくる。

□今年はこんなことをやってみる!?

・『はじめての老い』を刊行した名物編集者のトークイベント（5月中旬@graf porchで予定）をいかに面白い場に変えることができるか
・真面目なインタビューや対話をどう伝えるかの一方法として、人形劇や“シュールなVTuber”のようなやり方（見えかたの再編集）を試みる
・”ひとりしゃべりラジオ”をウルトラプロジェクトの全メンバーにまわすための方法論を考える
・バイリンガルマガジン『THE ULTRA』を企画・編集する

※続きは、学生のみなさんともBYEDIT編集会議で……👋

BYEDIT
編集部員募集
●何事か企てたい人 ●同じ学科に気のあう友だちがいない人 ●夢日記をつけてる人 ●ラッパー ●詩人 ●おもしろい髪型の人 ●いつも何か書いてる人 ●けっこう弱点のある人 ●片づけられない人 ●何かしら溜めこむ癖のある人 ●断食やったことある人 ●占いができる人 ●深夜に散歩してる人 ●動植物の好き嫌いがある人 ●注文するときに迷いすぎて店員を待たせがちな人 ●尾行したことがある人 ●海外の知人がいる人 ●ハッカー ●養蜂やってる人 ●楽器を持ち歩いている人 ●記憶力には自信がある人 ●coconogaccoに行ってた人 ●野菜を育てている人 ●俳人 ●個性とは無縁の人 ●曇天が好きな人 ●ある時代の歴史に詳しい人 ●いつも買ってるマンガ雑誌がある人 ●他大学のサークルに所属している人 ●家族のことで話したいことがある人 ●よく眠る人 ●断食経験のある人 ●バイトはしないという人 ●キャッチャー ●入学するまでは全然違うことをしていた人 ●正解よりも間違いを求める姿勢のある人 ●当たり前を疑い、不思議を探求する好奇心のある人
BYEDITは、毎年集まったメンバーそれぞれの
"編集の力"を生かし、新たなメディアを立ち上げる
プロジェクトです!
「編集とは、夜空の星を結んで星座を名づける行為」
「さまざまな人の知恵と技術を掛け合わせて、なにかを生み出していくことは、編集の力のひとつ」

THE ULTRA 02
THE ULTRA 10
vol.10 issue 2018
ULTRA FACTORYのこれまでとこれからを考えるために
Considering the Past and Future of ULTRA FACTORY
THE ULTRA 06
vol.06 issue 2014
CONTENTS
ULTRA FACTORY 2013
ULTRA PROJECT 2013
ULTRA INTERVIEW
ULTRA DIALOGUE
THE ULTRA 03
vol.03 issue 2011
CONTENTS
ULTRA PROJECT DIRECTOR INTERVIEW
ULTRA AWARD 2010 REVIEW
ULTRA Q FOR ULTRA STUDENTS
ULTRA TECHNICAL ARCHIVES
PROJECT PICK UP
ULTRA REVIEW
ABOUT ULTRA FACTORY
THE ULTRA 07
vol.07 issue 2015
THE ULTRA 08
vol.08 issue 2016
SEBASTIAN MASUDA
THE ULTRA
A magazine all about the ULTRA FACTORY
NEW FLOOR
NEW FLOOR!
2019年、ULTRA FACTORYの新工房が本格始動する。そこで今回の「THE ULTRA」では、いままでとはまた変化した新たなULTRA FACTORYを紹介していく。新工房の立ち上げから完成するまでの話に加え、これから目指す新工房の未来の形。そして今現在、新工房で制作された作品や新たに取り入れられた機材など、様々な視点から新工房がとらえられている。新しい一歩を踏み出したULTRA FACTORY。そこで新しい一歩を踏み出してもらいたい。
In 2019, Ultra Factory opened a new studio. In this issue of "THE ULTRA," we will introduce this newly transformed Ultra Factory. On top of episodes from the new studio's start-up to finish, we will also look at the new studio's aims for the future. Finally, we will introduce how the new studio is used from multiple viewpoints such as what works were made there and the newly installed equipment. A new step for Ultra Factory – we hope you too can take a new step forward.
11
vol.11 issue 2019

□BYEDITディレクターの紹介

多田智美 Tomomi TADA

編集者
株式会社MUESUM代表／株式会社どく社共同代表
http://muesum.org/　https://dokusha.jp/

［最近の仕事5つ］
｜コクヨのヨコク研究所＋MUESUM(弊社)＋吉勝制作所によるリサーチ活動<GRASP>
https://yokoku.kokuyo.co.jp/project/grasp/　https://graspmates.site/
｜50年以上続く奈良の福祉施設・たんぽぽの家のリクルートサイトの編集
https://recruit.tanpoponoye.org/
｜第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展に共同キュレーターとして参画
https://venezia-biennale-japan.jpf.go.jp/j/architecture/2023
｜大阪を誇る建築家集団ドットアーキテクツ初の作品集の編集
https://jp.toto.com/publishing/detail/A0400.htm
｜『東京藝大の学生と教員が探る「文化的処方」の種
「I LOVE YOU」プロジェクト2023 ドキュメント』（東京藝術大学）の編集
https://kyoso.geidai.ac.jp/detail.php?id=UdypR8OH

［観察していること３つ］
｜音読の可能性
｜非言語的なコミュニケーションや協働のヒントになること（バンド、ホットプレート料理など）
｜なにを食べたら、なにが出るか

竹内厚 Atsushi TAKEUCHI

編集者、ライター
Re:S
https://re-s.jp/

［最近の仕事5つ］
｜月刊誌『SAVVY』で毎月関西のアーティストを取材する連載記事が80人目に
https://www.lmagazine.jp/savvy/
｜名古屋市の港まちで編集に携わってきた『ポットラック新聞』は20号に到達
https://www.minnatomachi.jp/potluck_shinbun/index.html
｜住宅建築家38組のアトリエを訪ねての作品集制作（青幻舎・刊）
https://www.seigensha.com/books/978-4-86152-952-8/
｜ごきげんなひとり住まいを探った『オトナのひとり住まい』本の編集
https://www.a-crafts-event.com/ohohitohon
｜豊岡市での豊岡演劇祭のウェブサイト編集
https://toyooka-theaterfestival.jp/

［気になっていること３つ］
｜ラジオ番組から生まれるいい具合のコミュニティ感
｜数年前にここに書いたときは男のスカートでしたが、今の関心はネイルへ
｜鳥の鳴き声と飛んでいる姿のこと